

教科等研究会（中学校音楽部会） 令和２年度 研究活動のまとめ

1 研究テーマ

イメージを伝え合い、協働する喜びを感じる音楽科授業

2 研究経過

第 1 回			第 2 回			第 3 回		
期日	人数	場所	期日	場所	授業者	期日	場所	授業者
7/6	9	嘉島中	11/19	益城中	益城中 松山亜衣 教諭	1/22	嘉島中	研修 協議

3 研究の概要

(1) 研究の内容

「研究テーマについて」

平成20年度告示の学習指導要領から「共通事項」が示され、音色やリズムなどの音楽を形づくる要素を手がかりに、思い描いたイメージを音楽表現へと具現化する授業を進めていくこととなった。そこで本部会では、「共通事項」を手がかりとした授業実践を考えるうえで重要になる「言語活動」について研究を行うこととした。そして、言語活動を授業実践にどのように取り入れていくのかについて、今年度も研修を深めていくことになった。

第1回の教科等研で「文楽」を教材とした鑑賞活動の研究を行うことを決めた。そして、「文楽」の授業で言語活動を行う中で課題となることを出し合った。複数人で話し合う活動をどのように行うかについて話題が集まり、言語活動の中でも特にペアやグループでの活動に絞り、授業の中でどのように実践していくのかについて研究することにした。

また、学習指導要領解説に述べられている音楽科における言語活動のポイントには、「生徒の実態とねらいに応じて、多様な学習形態を取り入れ、友達と思いや意図を共有しながら音楽表現をして、協働する喜びが感じられるような授業を展開する」と示されている。

以上のことから、「協働する喜びを感じる」言語活動を中心として研究を行った。

「研究の流れについて」

研究テーマに沿って進めていくために、実践授業における「協働する喜びを感じる」言語活動の具体的な場面を話し合い、以下の3つを考えた。

- ① 小アンサンブルなど様々な編成を工夫して、生徒が表現したい方法や形態を選択して取り組むなど、生徒一人一人が個性を発揮し、主体的に活動できる場面
- ② 合唱や合奏等、学級全員で一つの音楽をつくっていく体験を通して、表現したいイメージを伝え合う場面
- ③ 鑑賞で楽曲の特徴を感じ取る過程で、ねらいに応じて、感じ取ったり気づいたりしたことを音楽の要素と関わらせながら話し合う場面

第1回研修会では、上記の①～③について検討を行い、③について授業研究会を実施することを決めた。

第2回研修会では、③について研究授業を実施した。「伝統的な歌唱の体験を通して、生徒の思いや意図を基に音楽の要素と関わらせながら鑑賞活動を行う。そのために、グループで話し合ったり、全体で発表したりするなどして、感じ取ったことを音楽の要素と関連させながら活動する場を設定する。」などの意見が出された。

第3回研修会では、講師を招聘し、新学習指導要領の全面実施に向けた取組上のポイントや実践例を学んだ。また、③について行った授業研の指導案についても新学習指導要領の視点から御教授いただいた。

(2) 成果と課題

「本年度の成果」

- 第1回研修会では、これまでの授業実践を振り返り、できていることと、できていないことを出し合い、郷土の音楽である「清和文楽」を教材に授業研究会を行うこととなった。多くの意見が出され、研究目標を深めることができた。
- 第2回研修会では、参観授業と研究協議を行った。授業までに数回事前研や指導案検討会を行い、会員が協力して授業を作ることができた。
- 授業では、文楽の「義太夫節」の音楽的要素に着目・比較し、その特徴について互いの意見を交換することで、日本の伝統文化に対する理解を深めることがねらいとされた。清和文楽館の職員の方が説明する映像を使う等、視聴覚教材を効果的に活用していた。視点が明記されたワークシートや掲示物、見やすく分かりやすいプレゼンテーションのスライド、そして個人からグループ、全体へと学びを広め協働で課題解決に当たる場の設定など、本時の目標に迫る工夫がなされていた。
- 研究協議では、音楽の特徴や人形遣いに着目させるための視覚教材の使い方や、歌唱の体験を効果的にするための授業展開について、互いの実践や意見を交換することができた。また、生徒の実態に応じて、ペアやグループ学習など言語活動の充実を図るための手立てや時間の確保、学習を振り返る場の設定等についても、本時の授業における指導や生徒の反応をもとにして協議を深めることができた。
- 第3回研修会では、熊本大学の山崎淳教授から新学習指導要領の全面实施に向けた取組上のポイントや実践例を講話していただき、授業を展開するうえでのポイントとなる場面や見方・考え方をどのように生徒達に伝えていくのかなど、多くの示唆を得ることができた。また、第2回研修会で行った研究授業に対しても指導いただいた。

「来年度への課題」

- ▼ 新学習指導要領全面实施に向け、指導案の書き表し方、評価のあり方、また構想案について研修を行う必要がある。
- ▼ 伝統的な歌唱について、共通した実践を展開し、研究授業の中身について更に検討を深めていく。特に、教材や教具についての検討を行い、全学校で実践、検証する必要がある。
- ▼ 伝統的な歌唱について、歌唱体験や鑑賞活動が中心となり、背景にある文化・歴史のかかわりについて理解を深めるための指導方法の工夫について検討する必要がある。

4 実践事例

題材 「日本の伝統芸能に親しみ、声や音楽の特徴を感じ取りながら聴こう」

教材名 教材 教育芸術社 2・3上 p. 48 文楽「新版歌祭文」 “野崎村の段” から

(1) 授業の概要

【参観授業】

本題材は、中学校学習指導要領解説音楽編（平成20年度9月）に示してあるB鑑賞（1）の内容から「ア 音楽を形づくっている要素や構造と曲想との関りを理解して聴き、根拠をもって批評するなどして、音楽のよさや美しさを味わうこと。」「イ 音楽の特徴をその背景となる文化・歴史や他の芸術と関連付けて理解して、鑑賞すること。」に関する学習内容である。

文楽の太夫、三味線遣い、人形遣いについて学習し、太夫の歌唱体験を通して、文楽の音楽表現の素晴らしさを味わう活動であった。

また、清和文楽館の太夫に、歌唱表現の手本を映像として提供していただき、その映像を基に生徒達は太夫の体験をした。

【研究協議】

成果として、

- 授業の内容がコンパクトにまとめてあり、指導内容や生徒の活動が分かりやすかった。
- 見やすく分かりやすいプレゼンテーションのスライドであった。

課題として、

- ▼ 義太夫の演奏表現、人形遣いの所作の表現、それぞれのよさをどのように感じ取らせるのか、またそれらが一体となって文楽が表現されていることをどの場面で押さえるのが大切であり、知識面が多くなっている。

(2) 学習指導案

第2学年5組 音楽科学習指導案

指導者：益城町立益城中学校 教諭 松山 亜依

1 題材名 我が国の伝統芸能に親しみ、そのよさを味わおう
 教材名 教材 教育芸術社2・3上 p.48 文楽「新版歌祭文」“野崎村の段”から

2 題材について

- (1) 題材観 (省略)
- (2) 系統について (省略)
- (3) 生徒の実態について (省略)
- (4) 指導観

①題材の特徴から

- ・地域に根差した伝統芸能として「文楽」に焦点を当てた。生徒にとって初めて出会う教材なので、出会わせ方や「太夫」の語り方を中心に授業をしていきたい。
- ・文楽は物語の流れがわかると面白く見えてくるので、最初は物語を説明して話を理解したうえでDVDを鑑賞できるようにしたい。

②生徒の実態から

- ・話し合いが活発に行える学級なので、音楽を苦手としている生徒も協力しながら学習を進めることができるようにグループ活動の時間を十分にとるようにする。
- ・「清和文楽」で録画・録音してきたデータを使い、上益城郡の伝統芸能についてICTの活用を通して、耳だけでなく目に見てわかるような、説明の工夫を行う。

3 題材の目標

- (1) 「文楽」のなかでも「人形遣い」の学習することで、三人遣いの様子や人形の特徴について学ばせ、生徒に見える特徴から興味を持たせる。
- (2) 「人形遣い」を操っている「語り」の学習をすることで、太夫の語り方に気付かせるとともに三味線の特徴をおさえ、未来へ発展していく「文楽」の良さや美しさを味わう。

4 題材の評価の規準

(ア) 音楽への関心・意欲・態度	(エ) 鑑賞の能力
①声や楽器の音色、節回し、リズム、速度と曲想のかかわりや、音楽の特徴とその背景となる文化・歴史や他の芸術との関連に関心をもち、鑑賞する学習に主体的に取り組もうとしている。	①声や楽器の音色、節回し、リズム、速度を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、音楽を形づくっている要素や構造と曲想とのかかわりを理解している。 ②音楽の特徴をその背景となる文化・歴史や他の芸術と関連付けて理解するなどして、根拠をもって批評するなどして、音楽のよさや美しさを味わっている。

5 指導計画及び評価基準

時	学習活動 【共通事項】	指導上の留意点	評価の観点		評価基準及び 【評価方法】
			関	鑑	
1	○「人形遣い」の特徴を知る。 ○「三人遣い」のやりがいを楽しさを体験活動して感じる。 ○動画を観ながら「人形遣い」に興味を持ち、物語を理解して、文楽のDVDを鑑賞する。	○パワーポイントを使用し、観てわかる環境を整える。 ○実際の映像を見せることで、興味を持ちながら、人形の作りや操作に興味を抱かせる。	○		「人形遣い」について興味を持つことで「文楽」を身近に感じ、興味を持つことができる。 【観察・ノート】
2	○前時の復習し「語り」を学ぶ。 ○DVDや清和文楽の動画を用いて「語り」を体験させる。 ○今後も日本の文化を学ぶと同時に、昔から大切にされてきた「文楽のよさ」について考えを書かせる。	○DVDの真似をさせ、清和文楽で録画してきたデータを使うことで、生徒が楽しく「語り」について理解できるようにする。 ○清和文楽のパブリカ体操やアマビエを用いた演劇がで文化がつながることを紹介する。	○	○	「語り」について学ぶことで、受け継がれてきた文化が「伝統」になっていることを理解し、これからも引き続き継承されていく文化への理解をもとうとしている。【観察・ワークシート】

6 本時の学習

(1) 目標 文楽の「語り」を学習し、体験活動を通して文楽の良さをまとめることができる。

(2) 展開 (2 / 2)

過程 (時間)	学 習 活 動	主発問・反応予想・留意点・支援・評価等	備 考
導入 5分	1 文楽に関する前時の振り返りをする。(一斉)	○人形遣いの動きを確認し、「人形を操る人を操る役割」について「語り」を学習していくことを伝える。	パソコン ワークシート
展開 3分	2 本時のめあてを知る。(
	本時のめあて 「語り」をについて理解し、文楽の良さをまとめよう。		
2 2分	3 太夫の「語り」を教科書付属のDVDや清和文楽の動画を見て知り、挑戦する。 (1) 聞き取ったことを特徴に気付かせる。 (2) 挑戦しようでは、女性の笑い声の真似をさせる。	○「野崎村の段」の物語を確認し、DVDで物語を復習する。本時の「語り」の部分は特に意識して見させる。 ・太夫について(2分20秒) ・模擬演奏を聴こう(1分10秒) ・語るときの姿勢(50秒) ・まねて語ろう(約6分) ○「まねて語ろう」は生徒の実態に合わせて繰り返したり、途中で説明を加えたりしながら見せる。 ○イントネーションを工夫して聞こえる話し方が「歌」であることを理解させる。 ○答え合わせをした後、DVDを真似して声を出させることで特徴に気付かせる。 ○清和文楽の方が説明して下さった動画で「笑い」「泣き」などに気付かせる。 (例)・主人公クラスのお侍 (野太い、声低い、ゆっくり) ・若い侍 (早口、声高い) (挑戦しよう)・女声の笑い(おほほほほ) ・町娘(あはははは) ○疑似体験なので、習得にならないように楽しい雰囲気を取り組ませる。 ○教科書付属のDVDから「義太夫節を聴こう(2分)」を鑑賞させ、太夫と三味線の関りを示す。 ○人形遣い、太夫、三味線を理解したうえで観ると理解が深まることを知る。	教科書付属 DVD 義太夫語り DVD
5分	4 三味線の役割を知り、文楽を最終的に操っているのは「義太夫」であり、サポートしているのが「三味線」であることを理解する。(一斉)		
5分	5 現在まで文楽が続いている理由として、現代アレンジされた「人形や話」があることを知る。(一斉)	○現在まで文楽が続いている理由として、「現代アレンジされた人形や話がある」ことに気付かせる。 。アマピエの動画や雪おんなの話伝える。	義太夫語り DVD
終末 10分	5 本時のまとめと振り返りを行う。	○学びをもとに「あなたが思う文楽の良さ」についてノートにまとめる。	P C

評価 B鑑賞 ア・イ

文楽のよさについて、義太夫や人形遣いをもとに文章を書いたり、今でもこの文化が日本に根付いている理由について人々の暮らしをもとにまとめたりしている。(観察・ワークシート)